



増頁! かいぼり27 特集

# いのけんとツマヤマネコ

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

吉祥寺

27号 2016年3・4月号

2016年(平成28年)3月1日  
●編集・発行 いのきちさん編集委員会 編集長 川井信良  
東京都三鷹市上連雀1-12-17 株式会社文伸 発行  
電話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp  
●協力 東京都西部公園緑地事務所 東京都井の頭自然文化園 井の頭恩賜公園100周年実行委員会 NPO法人みたか都市観光協会 一般社団法人武蔵野市観光機構  
●制作支援 株式会社文伸/ふんしん出版

井の頭恩賜公園 開園100周年まで あと1年2ヶ月

井の頭自然文化園 2016年3~4月

●彫刻館特設展「Art and the Zoo Vol.2」  
「身近な生き物たち」  
美術作家・安田ジョージさんによる、布や木など、自然素材を用いて表現された作品をご覧ください。  
日時 2016年2月19日(金)~5月8日(日) 9時30分~16時30分(彫刻館の閉館時間まで)  
場所 動物園(本園) 彫刻館B館

●はな子69歳のお祝い会  
アジアゾウの「はな子」は、2016年の元旦に69歳を迎えました。はな子の長寿をお祝いします。  
日時 2016年3月21日(月・祝) 11時から約1時間  
場所 動物園(本園) ソウ舎前

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 3月6日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 3月13日(日)、3月27日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 3月17日(木)
- ツリイ☆マジック(第二公園) 3月19日(土)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html> に載せます。

●吉祥寺音楽祭(野外ステージ) 4月29日(金・祝)



井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その8

ツマヤマネコ と 唐沢瑞樹さん

井の頭自然文化園が全国9施設とともに保護・繁殖に努めているツマヤマネコ。ちょうど1年前の2015年3・4月号掲載時には非公認でしたが、その後10月に4頭のうちメスのノリの展示が始まりました。  
小屋は日当たりがよく、対馬の自然環境を模して笹や草が生い茂ります。「草でよく見えないと言われることがありますが、日中は隠れるのがツマヤマネコの本来の姿。たとえ見えずらくても、調べたり、野生に思いを馳せたりするきっかけになれば、展示の意味があると考えています」と飼育員の唐沢瑞樹さん。  
「ノリは用心深い性格で、えさをやっても10分ぐらい駆け引きしてからようやく食べるほど。その上周りが食べカスだらけになるんですよ」。日によって馬肉や鶏肉、鶏頭やネズミを与えますが、ノリはきまってる馬肉など食べやすい順に口にしますのだとか。  
ツマヤマネコは繁殖のために、協力施設間を移動することがあります。引越先でのストレスを少しでも減らすのが、飼育員たちの大命題です。そこで全国の飼育施設による協議の結果、バラバラだった飼育方法の統一化が進んでいます。ツマヤマネコが少しでも快適に暮らせるように、施設を越えた飼育員の知恵が、飼育方法に詰まっているのです。

小田原 滯 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

足の裏の手入れは「はな子」次第

大型獣であればあるほど、思い体重を支える脚は、非常に重要です。特に足の裏は、直接地面に接していることから、ちょっとした怪我でも、大変な事態を招く恐れがあります。では、はな子の足のケアはどのように行っているのでしょうか?

現在、はな子の飼育管理に当たっては、安全管理上、ゾウと人が無衝突に接する準間接飼育をいう方法をとっています。この方法では、一般的に、十分にトレーニングがなされているゾウでは、人間の指示に従って足の裏を見せてくれるようになります。しかし、はな子は、上記のようなトレーニングは十分されてこなかったため、自由気ままな所があります。それでも、足の裏は気になるのか、自ら足の裏を飼育係に示し、様子を見るように催促することがあります。そんな時は、飼育係は、足の裏を見て、きれいに掃除し、爪も切ってあげるそうです。

たまの出来事です。ご覧になれた方はラッキーかもしれません。(井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉)

今月の はな子 27

募集

井の頭公園の古い写真を集めています

◀昭和25年頃の井の頭池 写真提供:鈴木育男氏

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ ふんしん出版 ☎0422-60-2211 (担当:宮川) 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀1-12-17

井の頭公園の生き物たち その27

井の頭かんさつ会 田中利秋 (たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外來魚問題にも取り組み。

臨機応変、東京都の鳥

かいぼりで水が減った井の頭池に、突然この鳥が現れました。日に日に数を増し、多い時は20羽をゆうに超えました。水がある場所がどんどん小さく浅くなり、そこに魚が集中して捕りやすくなったからです。井の頭池でユリカモメを見たのは初めてだ、と言う人が少なくないのですが、じつは、2006年度の冬までは多数来ていた鳥です。  
カモなどへのエサやりが盛んな時期で、ユリカモメもそれを目当てに毎朝通ってきていました。エサに群がるときはキョーキョーうるさいものの、水面を泳ぐのも地面を歩くのも自在で、優美に飛翔する姿にファンも多かったのです。とくに夕方、上昇気流に乗って一斉に青空高く舞い上がり、帰っていくようすは見ごたえがありました。カモメの仲間は海の

やってきた集団

ユリカモメ

「かいぼりの間、カイツブリはどこにいるのでしょうか?」とよく聞かれます。確かにこことは分かりませんが、近隣の公園の池や大きな川に身を寄せているのだと想像しています。縄張り意識が弱まる冬は、住み着いている個体がいとも共存が可能です。  
写真は2月4日に井の頭池で見かけたカイツブリです。池底が露出したボート池の、湧水が流れる細く浅い「みお筋」で潜水を繰り返していました。翌日はいませんでした。ほかの目にも目撃情報があります。池のようすが気になって戻って来ているようです。善福寺、武蔵関、石神井などの公園の池や、多摩川などを見に行ったら、繁殖期より多い数の成鳥がいきました。カイツブリには多くの人が想像しているよりずっと長い距離を移動できる飛行能力があります。井の頭池のカイツブリたちがもっと遠いところで暮らしている可能性もあります。可能性はありますが、かいぼりが終わるのを今か今かと待っているなら、きっと近くにいます。

井の頭かんさつ会 田中利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

「桜じゃなくても梅じゃない?」という編集委員の一人から出された疑問。植物の視点からの2つの指摘でした。

①花が赤と白の二色で描かれていること。  
②山桜なら花と葉が同時に出るのに、葉は描かれます。花のみが描かれていること。  
そう言われると「梅かな?」と思えます。ね、この疑問にお答えいただいたのは、絵を所蔵する府中郷土の森博物館で長年学芸員を務め、現在は館長の小野一之さんです。  
「赤白二色、花と葉のことはともかく、私は桜でいいと思います。理由は、  
①「井の頭・小金井六社」のセットは、明らかに江戸市民の小旅行のお決まりコースなので、同時期に旅した折のスケッチと思われること。  
②その旅の日付がこの画帳に記されている「安政3年3月16日」で、これは新暦に直すと4月で、桜の季節となること。  
③もし「小金井六社」で「井の頭」なら、同時期の自分のスケッチではなく、それだけの名所絵などを模写したであろうと考えられるが、そのベースとなる絵が見当たらないこと。しかも「小金井」桜」に対応するように、井の頭が梅の名所とは知られていないこと。  
④「六社」の絵で花が咲いている樹の場所は、他の「江戸」名所図会等の挿画でも桜らしき樹が確認でき、現在もここに桜の樹がある。つまり、「小金井」はもちろん「六社」も桜で間違いないので、「井の頭」も桜と考えるのが自然であること。」

……なるほどカッテン!です。ちなみにこの画帳は小金井市の版画家が所蔵のもので、寄贈されたことらしい。

安田知代

▲府中郷土の森博物館所蔵の「小金井府中六社井の頭弁天画帖」の三連作の一枚「井の頭」。作者不明。安政三丙辰年(1856)「三月十六日」の日付。

斜面に描かれた花々は桜か? 梅か?

第9号(2013年3・4月号)でご紹介したこの絵、覚えていた方もいらっしやることでしょう。今回もう一度取り上げることにしたのは、「この花、桜じゃなくて梅じゃない?」という疑問が編集会議で出ていたからです。専門家から「なるほど、この回答を頂いたので、みなさまにもお伝えします!」

現在は、御殿山の斜面一帯の梅も知る人ぞ知る名所。昭和12(1937)年に篤志家の寄付で植えられた梅林です。

1級渡邊安浩のいのけん受験講座

第4回井の頭公園検定試験が無事終了しました。

第4回のけん試験は、2015年12月13日(日)に3・2級は三鷹産業プラザで、1級は武蔵野商工会館で行われました。今回の受験者数は昨年とほぼ同じで合計110名でした。  
3・2級受験者は95名で、3級合格者は45名(47%)、2級合格者は42名(44%)でした。1級受験者は15名で、合格者は6名(40%)でした。今年の1級合格率は、40%と過去2回の試験(2014年(12%)、2015年(13%))と比較して大幅にアップしました。いのけん講座、フィールド講座やいのきちさんの「いのけん受験講座」などが大いに役立ったと思います。3・2級に合格された方は、更に上を目指して頑張ってください。

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。



写真 古賀 親宗(こがのちかむね) 1983年 福岡県柳川市生まれ、三鷹市在住のフォトグラファー。



井の頭池のかいぼりが進んでいる。そのかいぼり作業を多くの市民ボランティアが支えている。代表的なのがほぼ一年中活動している「井の頭のかいぼり隊」である。学生から高齢層まで幅広い年齢層が参加しているが、山口行弘さん(69歳)のよう...

井の頭池のかいぼりが進んでいる。そのかいぼり作業を多くの市民ボランティアが支えている。代表的なのがほぼ一年中活動している「井の頭のかいぼり隊」である。学生から高齢層まで幅広い年齢層が参加しているが、山口行弘さん(69歳)のよう...

井の頭池のかいぼりが進んでいる。そのかいぼり作業を多くの市民ボランティアが支えている。代表的なのがほぼ一年中活動している「井の頭のかいぼり隊」である。学生から高齢層まで幅広い年齢層が参加しているが、山口行弘さん(69歳)のよう...

井の頭池のかいぼりが進んでいる。そのかいぼり作業を多くの市民ボランティアが支えている。代表的なのがほぼ一年中活動している「井の頭のかいぼり隊」である。学生から高齢層まで幅広い年齢層が参加しているが、山口行弘さん(69歳)のよう...

# 井の頭池 かいぼり27 レポート

井の頭かんさつ会 代表 田中利秋

## かいぼり25の反省

2013(平成25)年度冬のかいぼり25の結果、2014年は水が澄み、在来種が増加し、水草も生えました。しかし、残っていた外来魚が勢いを盛り返し、再び在来種を減らし始めます。とくにブルーギルの成魚を十分減らせなかったのが失敗でした。天敵のオオクチバスが減った2014年の池で大増殖したのです。2015年にモツゴやナマズの稚魚だけでなく、自身の稚魚さえほとんど現れなかったのは、おそらく、成魚があまりにも増えすぎたせいです。オオクチバスも2015年には増え始め、かいぼり後に放されたらしい他の外来種も多数見つかりました。そこで、今回のかいぼり27では、改めて外来魚の完全駆除を目指しました。弁天島の護岸補強などの工事、投棄物の回収なども行います。

Table with 3 columns: かいぼり25を実施した池で駆除したブルーギルの数(井の頭かんさつ会), 年度, 2014, 2015. Rows: 成魚 (1,951匹, 21,359匹), 稚魚 (91,704匹, 212匹).

## 第1期 (弁天池)は湧き水との戦い



かいぼりは初めての弁天池。11月10日に水を抜き始めましたが、なかなか水位が下がりにません。予想外の量の水が湧いていたのです。ポンプを増やして排水に努めたものの、11月21~23日の捕獲イベント時はまだ水深がありました。そこで、大勢で魚を一か所に集めて投網を打ち、コイやゲンゴロウブナなどの大きな魚を捕りました。それと並行して、岸辺に潜む小魚やエビをタモ網で地道に捕獲・救出しました。イベント後も排水の設備と技術は進歩を続け、効率良く排水できるようになりました。水が少なければ人が優位。水たまりが小さくなる時に捕獲作業を繰り返し、イベント時より多くの魚を捕りました。

保護対象種の変更 事前に「井の頭外来生物問題協議会」で議論が行われ、今回は昔から井の頭池にいた種類だけを保護することに決まりました。前回は弁天池に放されたコイ、ゲンゴロウブナ(ハラブナ)、ヌマチチブ、クサガメも今回は駆除対象です。なお、このレポートでは、保護対象種、国内外来種または飼育品種、国外外来種と色分けしています。

## 第2期 (ボート池・お茶の水池)は泥との戦い

1月6日に排水を開始。8台のポンプで水位は順調に下がり、捕獲イベントの1週間前には池底が広く現れました。イベント初日の1月23日はボート池、翌日はお茶の水池での捕獲です。23日は半日ボランティアの「お魚レスキュー隊」が午前と午後に参加し、子供たちも泥まみれで魚捕りに励みました。いずれの日も、水が減ると締まる深い泥から抜け出せなくなり、救出される人が続出しましたが、たくさんの魚を捕まえました。

## 井の頭池の泥はヘドロ?

ヘドロは有機物とそれを分解する嫌気性の細菌が大量に含まれた泥で、ドブ臭がします。井の頭池の泥は田んぼの泥のような感じで、あまり臭くありません。池の周りの土が雨水とともに流入したものです。かいぼりの障害になるだけでなく、窒素やリンなどの栄養素を多量に含んでいるため、植物プランクトンを増やして池の水を濁らせます。しかし、大量の泥の処分には多額の費用がかかるため、おいそれとは取り除けません。岸辺からの流入を減らす工夫が重要です。

## バージョンアップした参加者

100年実行委員会と外来生物問題協議会の所属団体、井の頭かいぼり隊、外部の支援団体など、多くの人が参加しました。かいぼり25のときはまだ経験不足だった人も、今回は勝手が分かっていきます。池に入る人も陸上で動く人も、互いに連携しながら小魚やエビをタモ網で地道に捕獲・救出しました。とくに井の頭かいぼり隊は、日頃のモニタリングや、他のかいぼりの手伝いなどで実力を増し、かいぼり27の主力として活躍しました。

啓発活動も拡大 かいぼり期間中、池の生き物やかいぼりについて説明する、展示・解説ブース「かいぼり屋」が設けられました。第2期のイベント時は、環境省、東京都環境局、東京都植物多様性センターも出展しました。また、水が抜けた池底を歩く、ツアーや観覧会も催されました。外来種の問題や在来種保護の大切さを理解した人がますます増えたことでしょう。

## 鳥たちが活躍

湧き水に加えて降雨や降雪もあり、池の水は減ったり増えたりを繰り返しました。なかなか池に入れない人間に代わって活躍したのが、魚を食べる鳥たちです。カワウ、コサギ、アオサギ、ダイサギ、ユリカモメ、カワセミなどが水たまりやみお筋に来て魚を捕りました。夜もゴイサギとアオサギが漁をします。飛んで移動でき、体重が軽い鳥は、泥が深くても平気です。もっとも、外来種だけでなく貴重な在来種も食べてしまうのです。

## 付随工事

弁天島の崩れていた護岸を補強する工事が行われました。丸石を積み上げた丈夫な護岸で、弁天が傾く心配はなくなりました。お茶の水池にも浅場が造成され、生き物が暮らせる場所が増えました。また、ボート池と弁天池の間の仕切りが取り除かれ、井の頭池はひとつの池に戻りました。

## 明らかになった生き物の状況

お茶の水池とボート池の結果は、日頃の調査活動で感じていたこととほぼ同じでした。コイとゲンゴロウブナはかいぼり25で全数除去したのに、大きな個体が多数いました。捕れたブルーギル2千2百匹は、かんさつ会とかいぼり隊がその前に3万匹近く駆除した残りです。在来種は危機的状況のものが多かったのですが、幸い弁天池に残っているものがいたので、今後の復活が期待されます。今回は全池をかいぼりし、水抜き期間も長くしたため、生き延びる外来魚は前回よりずっと少ないと思います。ただし、泥に潜っているアメリカザリガニなど、駆除しきれていない外来種もいます。

運命が分かれたハゼ類 クロダハゼ、ヌマチチブ、ウキゴリ. 少し前まではトウヨシノポリと呼ばれていた。数が減っていたが、弁天池にはいなかった。駆除対象とされた。

ガックリ生き物 ニシキゴイ、ヒブナ、ハゴロモモ. かいぼり25のときのようなビックリな生き物はいませんでしたが、誰かが捨てた生き物がいろいろ見つかりました。下記はその一部です。

かいぼり29に向けて 3月上旬に湛水が開始され、桜が咲く前に満水になります。保護していた在来種を池に戻します。2年後はかいぼり29です。今回の湧水の確認は水質改善を目指して努力してきた人々を勇気づけたので、努力は今後も続くでしょう。しかし、湧水が増えるほど外来種の完全駆除は難しくなります。神田川から遡上してくる外来種もいるでしょう、勝手に放す人もいられるかもしれません。今後も継続的なモニタリングと必要に応じた外来種駆除が必要です。そんな条件下でどこまで良い池にできるかは、どれだけ多くの人が井の頭池の問題に関心を持ち、解決のために力を発揮するかにかかっています。

『いのきちさん』について 都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発行された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です) http://www.inokichisan.com/

よみがえれ! 井の頭池27のべ400名が大活躍! 「スペシャル2days」 2年ぶり2回目となる「かいぼり」。池の自然再生を目指す、地域の市民を中心とした協働で実施している先進的な試みです。今回の「おさかなレスキュー隊」(1日限定ボランティア)の一般参加者115名の公募にあたっては、申込受付からなんと40分で定員に達したとのこと! 地域のみさんの熱意がヒシと伝わってきます。そして1月23日と24日の「かいぼり27スペシャル2days」当日は、のべ350名以上のボランティアと行政関係合計のべ400名以上が参加し、25種5千369匹の生きものを捕獲しました。注目すべき結果は、在来種の捕獲数が全体の44%だったこと。2年前は16%でしたから大幅増! 池の生態系が着実に良い方向へ向かっていく証拠です。桜シーズン直前に池の水が戻されるまで「かいぼり27」は続きます。注目です。